



2021年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年10月15日

上場会社名 株式会社 松屋

上場取引所 東

コード番号 8237 URL <http://www.matsuya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 秋田 正紀

問合せ先責任者 (役職名) 総務部コーポレートコミュニケーション課 課長 (氏名) 関 泰程

TEL 03-3567-1211

四半期報告書提出予定日 2020年10月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績(2020年3月1日～2020年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	20,584	54.1	2,237		2,283		4,478	
2020年2月期第2四半期	44,830	0.2	389	31.3	422	27.4	267	39.5

(注)包括利益 2021年2月期第2四半期 3,851百万円 (%) 2020年2月期第2四半期 481百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	84.37	
2020年2月期第2四半期	5.04	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第2四半期	56,423	16,912	30.0	318.57
2020年2月期	57,823	20,897	36.1	394.09

(参考)自己資本 2021年2月期第2四半期 16,912百万円 2020年2月期 20,877百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		3.50		4.50	8.00
2021年2月期		0.00			
2021年2月期(予想)			0.00	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2020年2月期の期末配当金の内訳 普通配当 3円50銭 記念配当 1円00銭

3. 2021年2月期の連結業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,500	43.8	4,400		4,500		6,500		122.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期2Q	53,289,640 株	2020年2月期	53,289,640 株
期末自己株式数	2021年2月期2Q	199,226 株	2020年2月期	314,394 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期2Q	53,074,403 株	2020年2月期2Q	52,975,251 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	経営成績に関する説明	2
(2)	財政状態に関する説明	3
(3)	連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2.	四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1)	四半期連結貸借対照表	4
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
	四半期連結損益計算書	
	第2四半期連結累計期間	6
	四半期連結包括利益計算書	
	第2四半期連結累計期間	7
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4)	四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
	(継続企業の前提に関する注記)	9
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
	(追加情報)	9
	(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期(2020年3月1日～2020年8月31日)におけるわが国経済は、現政権下での総合経済対策による景気減速への対応が進む一方、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然厳しい状況のうちに推移いたしました。

百貨店業界におきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、営業時間の短縮や臨時休業を余儀なくされ、東京地区百貨店売上高は前年実績を大幅に下回りました。

こうした状況の中、当社グループでは、前3ヵ年計画の反省と成果を踏まえつつ、2019年11月に創業150周年を迎えた本3ヵ年は、「中期経営計画『デザインの松屋』(2019～2021年度)」において、当社が世の中に対して実現したいことを「デザインによる、豊かな生活。」であると定め、その実現に向けた重点施策に取り組み、業績の向上を目指してまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症による経済への影響が極めて深刻になる中、百貨店業をはじめとする当社グループの売上高は、前年実績を大幅に下回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は20,584百万円と前年同四半期に比べ24,245百万円(△54.1%)の減収となり、営業損失は2,237百万円と前年同四半期に比べ2,626百万円の減益、経常損失は2,283百万円と前年同四半期に比べ2,706百万円の減益、親会社株主に帰属する四半期純損失は4,478百万円と前年同四半期に比べ4,745百万円の減益となりました。

<百貨店業>

百貨店業の銀座店では、中期経営計画の重点施策の下、個性的な百貨店「GINZA スペシャルティストア」のさらなる進化を推進すべく、当第2四半期におきましては、地下1階洋菓子売場の一部を改装し、引き続き、他フロアとの品揃えのグレードとテイストの統一と、さらなる利便性と買廻り性の向上に尽力してまいりました。

一方、免税売上高につきましては、新型コロナウイルス感染拡大による世界各国の出入国規制により、売上高は前年実績を大幅に下回りました。

催事におきましては、「誕生65周年記念 ミッフィー展」を開催する等、コロナ禍においてもお客様が安心してお楽しみいただける環境を推し進めながら、独自性と話題性のある企画によって集客力を高め、売上の向上に努めてまいりました。

浅草店におきましては、引き続き、入居する商業施設「EKIMISE」との相乗効果の発揮に取り組み、施設内を買い廻るお客様の需要を取り込むプロモーションの強化や、お客様への積極的な商品提案やおもてなしを強化する等、業績の向上に尽力してまいりました。

しかしながら、4月上旬の政府による新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた緊急事態宣言の発出、さらには、5月上旬の緊急事態宣言期限延長等による銀座店・浅草店の臨時休業が要因となり、売上高は前年を下回る結果となりました。

以上の結果、百貨店業の売上高は17,924百万円と前年同四半期に比べ22,850百万円(△56.0%)の減収となり、営業損失は1,862百万円と前年同四半期に比べ2,307百万円の減益となりました。

<飲食業>

飲食業のアターブル松屋グループにおきましては、主力となる婚礼宴会部門において、「東京大神宮マツヤサロン」を中心に婚礼組数の獲得に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染拡大等の影響を受け、婚礼・宴会の中止等が相次ぎ、売上高・営業利益とも前年を下回りました。

以上の結果、飲食業の売上高は1,330百万円と前年同四半期に比べ1,302百万円(△49.5%)の減収となり、営業損失は233百万円と前年同四半期に比べ194百万円の減益となりました。

<ビル総合サービス及び広告業>

ビル総合サービス及び広告業の(株)シービーケーにおきましては、新型コロナウイルス感染拡大等の影響を受け、宣伝装飾部門、建装部門の受注案件等の縮小を余儀なくされ、売上高・営業利益とも前年を下回りました。

以上の結果、ビル総合サービス及び広告業の売上高は1,976百万円と前年同四半期に比べ564百万円(△22.2%)の減収となり、営業損失は80百万円と前年同四半期に比べ85百万円の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、1,399百万円減少し56,423百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金636百万円の減少、その他流動資産934百万円の減少等によるものであります。負債合計は前連結会計年度末に比べ、2,584百万円増加し39,510百万円となりました。これは主に借入金3,609百万円の増加等によるものであります。純資産合計は利益剰余金4,716百万円の減少等により、前連結会計年度末に比べ3,984百万円減少し16,912百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を合理的に算定することが困難であったため、公表を見送っておりましたが、現時点で入手可能な情報及び予測等に基づき業績予想を算定いたしましたので公表いたします。

また、2021年2月期の配当予想につきましても未定としておりましたが、業績予想の合理的な算定が可能となったため、配当予想も公表いたします。

詳細につきましては、本日別途公表いたしました「営業外費用、特別損失および特別利益の計上ならびに業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,164	2,277
受取手形及び売掛金	3,644	3,007
たな卸資産	2,080	2,051
その他	1,587	652
貸倒引当金	△2	△11
流動資産合計	9,474	7,977
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,936	10,689
土地	18,102	18,102
その他(純額)	397	491
有形固定資産合計	29,436	29,283
無形固定資産		
借地権	9,379	9,379
その他	389	643
無形固定資産合計	9,769	10,022
投資その他の資産		
投資有価証券	7,395	7,368
その他	1,758	1,782
貸倒引当金	△10	△11
投資その他の資産合計	9,142	9,139
固定資産合計	48,348	48,445
資産合計	57,823	56,423
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,550	5,088
短期借入金	8,021	12,110
未払法人税等	89	42
賞与引当金	179	201
商品券等回収損失引当金	394	489
ポイント引当金	85	87
その他	5,225	5,386
流動負債合計	20,545	23,407
固定負債		
長期借入金	13,475	12,995
環境対策引当金	29	29
退職給付に係る負債	795	731
その他	2,080	2,346
固定負債合計	16,380	16,102
負債合計	36,925	39,510

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,132	7,132
資本剰余金	5,482	5,411
利益剰余金	6,973	2,257
自己株式	△428	△252
株主資本合計	19,160	14,548
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,013	2,653
退職給付に係る調整累計額	△296	△289
その他の包括利益累計額合計	1,717	2,364
非支配株主持分	20	—
純資産合計	20,897	16,912
負債純資産合計	57,823	56,423

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	44,830	20,584
売上原価	34,713	16,217
売上総利益	10,116	4,366
販売費及び一般管理費	9,727	6,604
営業利益又は営業損失(△)	389	△2,237
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	86	81
債務勘定整理益	77	84
受取協賛金	33	24
その他	32	33
営業外収益合計	230	224
営業外費用		
支払利息	104	119
商品券等回収損失引当金繰入額	69	132
その他	22	18
営業外費用合計	196	270
経常利益又は経常損失(△)	422	△2,283
特別利益		
助成金収入	—	402
特別利益合計	—	402
特別損失		
固定資産除却損	76	23
減損損失	—	69
投資有価証券評価損	29	823
臨時休業による損失	—	1,636
その他	2	1
特別損失合計	107	2,555
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	315	△4,437
法人税、住民税及び事業税	16	12
法人税等調整額	31	48
法人税等合計	47	61
四半期純利益又は四半期純損失(△)	267	△4,498
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△20
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	267	△4,478

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	267	△4,498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△768	640
退職給付に係る調整額	20	6
その他の包括利益合計	△748	647
四半期包括利益	△481	△3,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△481	△3,830
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△20

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	315	△4,437
減価償却費	737	717
賞与引当金の増減額(△は減少)	86	22
受取利息及び受取配当金	△86	△81
支払利息	104	119
固定資産除却損	76	23
減損損失	0	69
投資有価証券評価損益(△は益)	29	823
臨時休業による損失	—	1,636
売上債権の増減額(△は増加)	946	636
たな卸資産の増減額(△は増加)	△263	29
仕入債務の増減額(△は減少)	83	△1,461
未収消費税等の増減額(△は増加)	303	850
その他	△79	237
小計	2,252	△813
利息及び配当金の受取額	89	84
利息の支払額	△109	△123
臨時休業による損失の支払額	—	△1,478
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△285	△13
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,946	△2,345
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△366	△423
無形固定資産の取得による支出	△43	△358
投資有価証券の取得による支出	△52	△5
投資有価証券の売却による収入	50	0
事業譲渡による収入	—	106
差入保証金の増減額(△は増加)	6	14
その他	△56	△46
投資活動によるキャッシュ・フロー	△463	△712
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	4,089
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,430	△480
長期未払金の増減額(△は減少)	△5	△8
配当金の支払額	△159	△237
預り金の増減額(△は減少)	—	△155
その他	△26	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	△622	3,171
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	860	112
現金及び現金同等物の期首残高	2,666	2,164
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,527	2,277

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大及び政府による緊急事態宣言等を受け、本年3月より店舗等において営業時間の短縮や臨時休業を実施いたしました。その後、緊急事態宣言が解除されたことに伴い、5月末より店舗の営業を再開しております。第1四半期連結会計期間末においては、繰延税金資産の回収可能性の判断および固定資産の減損の判定について、新型コロナウイルスの感染拡大影響が2020年夏まで続くものと仮定し、会計上の見積りを会計処理に反映しておりました。

しかしながら、当第2四半期連結会計期間末において、入手可能な情報等を踏まえ、改めて本感染症による今後の影響を検討した結果、消費マインドの冷え込みは改善しつつも、諸外国の感染状況及び渡航制限の状況に鑑み、インバウンド需要の回復には更なる時間を要すると見込まれる為、感染拡大影響が2021年の途中まで続き、その後緩やかに回復していくものと仮定を変更いたしました。

なお、本感染症による影響は不確定要素が多く、今後の感染拡大の状況によっては当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	飲食業	ビル総合 サービス 及び 広告業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	40,634	2,536	1,310	44,481	348	44,830	—	44,830
セグメント間の内部 売上高又は振替高	139	96	1,231	1,467	403	1,871	△1,871	—
計	40,774	2,632	2,541	45,949	752	46,701	△1,871	44,830
セグメント利益又は 損失(△)	444	△39	4	410	14	425	△35	389

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、用度品・事務用品の納入、OA機器類のリース、保険代理業、輸入商品の販売、商品販売の取次ぎ、商品検査業務等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△35百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	飲食業	ビル総合 サービス 及び 広告業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	17,828	1,318	1,178	20,325	259	20,584	—	20,584
セグメント間の内部 売上高又は振替高	95	12	798	905	254	1,160	△1,160	—
計	17,924	1,330	1,976	21,231	513	21,745	△1,160	20,584
セグメント損失(△)	△1,862	△233	△80	△2,176	△4	△2,181	△55	△2,237

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、用度品・事務用品の納入、OA機器類のリース、保険代理業、輸入商品の販売、商品販売の取次ぎ、商品検査業務等が含まれております。

2 セグメント損失(△)の調整額△55百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。